

## 中国文化財の返還を実現するための日中民間共同宣言

日本は、日清戦争以降約半世紀にわたって、中国に対して数度にわたる侵略戦争と植民地侵略を行い、中国各地から膨大な数の石像、石碑、青銅器、陶磁器、仏像、書籍、絵画などの文化財を奪いました。

私たち「中国文化財返還運動を進める会」（日本）と「中国民間対日賠償請求連合会」（中国）は、「日本が奪った中国文化財を元の場所に返還する」運動を展開しています。

日本と中国は隣国であり、2000年以上にわたって文化交流を主軸とした友好関係を築いてきましたが、19世紀後半、日本はアジアに覇権を唱えて軍国主義の道を歩み、中国を含むアジア諸国を侵略し続け、アジアの人々から数千万人もの命を奪い、さらに多くの貴重な中国の文化財を日本に奪い去りました。

悲惨な歴史を消し去ることはできず、虐殺された命や焼失した財産を取り戻すことはできませんが、いまなお日本に不当に持ち込まれた中国文化財を「元の場所」に戻すことは可能です。

「奪われた文化財を元の場所に戻す」というのは、現在日本（文化財が本来所属していたところではない場所）にある中国文化財の本来の価値をとり戻すことです。また、文化財を「元の場所に戻す」この運動は、1972年の日中共同声明でうたわれた「両国間の恒久的な平和友好関係を確立する」という理念に沿うものであり、日中両国の平和と友好の実現に寄与するものです。

当面、私たちの運動は、「戦利品」として日本に奪われた2つの文化財の返還を目指します。ひとつは、日清戦争中に中国遼寧省海城市の三学寺から奪われ、現在、日本の靖国神社と山縣有朋記念館に存在している中国の石獅子であり、もうひとつは、日露戦争中に遼寧省大連市旅順口から奪われ、現在、日本の皇居に存在している唐鴻臚井碑とそれを保護する碑亭です。

この「奪われた中国文化財を元の場所に戻す」運動を進めるために、私たち日本と中国の市民は、それぞれの社会で、メディアなどの広報、学術研究、国際交流などの分野で行動します。また、脱植民地化運動の一環として、アフリカなど各地から奪われた文化財の返還を求める国際的潮流との連携、中国以外の朝鮮半島を含む対日文化財返還運動への積極的な協力も追求します。

これらの活動を通じて、私たちは日中両国において奪われた中国の文化財の

全面返還を求める日中間の世論を促進していくことを提起します。

以上の構想に基づき、私たち「中国文化財返還運動を進める会」と「中国民間対日賠償請求連合会」は力を合わせて行動し、中国文化財の返還を実現させることを、ここに宣言します。

2023年9月29日

中国文化財返還運動を進める会（日本） 中国民間対日賠償請求連合会（中国）

共同代表：五十嵐 彰

会長：童 増

瀨瀬 厚

東海林 次男

藤田 高景